

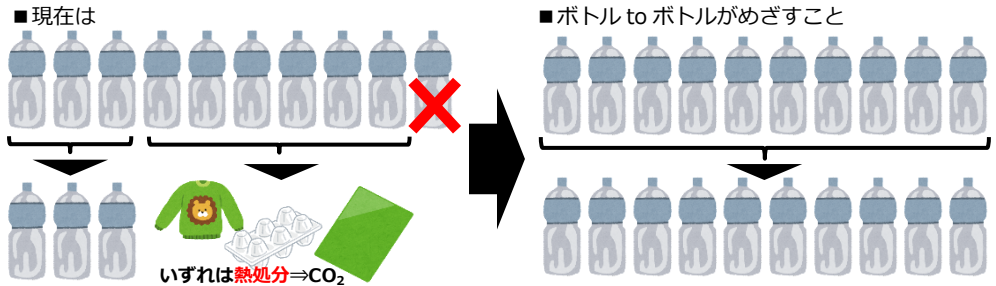


～尾花沢の未来をひらくいのち輝く人間の育成～

「まぜれば ごみ 分ければ しげん」 ～「これからも地球と共に」を常盤小から～



講師の田邊有沙先生



2月22日(木)に、段ボールコンポストを活用した肥料による大根栽培に取り組む常盤小学校の小学4年生～6年生を対象にリサイクル啓発授業が行われました。これは、「ペットボトルのリサイクルを通して、地球環境を守るために自分ができることを考えよう」というねらいで、尾花沢市・大石田町・環境衛生事業組合・サントリーの主催で行われたものです。



リサイクルマークをかける？

授業の冒頭では、講師の田邊有沙先生から「なぜリサイクルは大切なの？」と問いが出されました。

現在、ペットボトルは1年間に200億本以上販売されており、ごみとして熱処分してしまうと、地球温暖化につながってしまいます。また、ペットボトルの原料は、限りある資源「石油」ですので、どんどん資源が少なくなってしまいます。子供達は、リサイクルがいかに大切かを十分理解したようでした。



これがペットボトルに？

次に、ペットボトルができるまでの過程を説明していただきました。子供達は、特にプリフォーム(※ペットボトルを膨らます前の原型となる材料、調べてみてください)を手にとって興味深くながめていました。

その後、「ボトル to ボトル」について学びます。上の図のように、現在、ペットボトル10本のうち9本がリサイクルされていますが、純粹にペットボトルになるのは3本だけで、残りは服や卵のパック、文房具(下敷き)になっており、いずれは熱処分せざるを得ないようです。目指すのは、ペットボトル10本全てをペットボトルにリサイクルできるようにすること、すなわち「**ボトル to ボトル**」です。



意見を積極的に発表していました。

最後に「ペットボトルを資源にするために、あなたががんばりたいことは？」と問われ、子供達は次のように発表しました。

- 😊「飲み物を飲み切る」
- 😊「ペットボトルをすすぐ」
- 😊「キャップをとり、ラベルを剥がし、分別する」
- 😊「今日学んだ内容を家族に話す」
- 😊「面倒くさいをなくす」

私たちが便利さを追い求めた結果、地球は悲鳴をあげています。これからも地球と共に生きていくために、面倒でもできることを行動にうつすことで、地球環境を守ることができます。

午後には、家庭で出た天ぷら油等の再利用に向けた協定締結式も行われ、常盤小5・6年生がエネゴリくんとやりとりを通して、環境に対する意識を更に深めました。

常盤小学校の取組を契機に、環境保全運動が尾花沢市全体に波及していくことになりそうです。

【担当】尾花沢市教育委員会こども教育課
教育指導室長 工藤 雅史
TEL 23-3330